

第2回 大塚地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和3年9月26日（日）

午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

ZoomID: 990 0383 9907

パスコード: 216095

プログラム

開会	1 : 30
事務局から説明	1 : 35
<ul style="list-style-type: none">・ワークショップの趣旨・目的・進め方とスケジュール・前回ワークショップでのご意見・ご質問等への回答・小中学校規模適正化方針、公民館・保育園グランドデザイン・課題解決に向けた視点の整理・本日の検討内容	
(休 憩)	2 : 25
グループ討議	2 : 35
<ul style="list-style-type: none">・視点の整理・大塚地区の課題・課題解決の方策	
発表	4 : 00
事務連絡	4 : 25
閉会	4 : 30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第1回ワークショップの結果概要（案） 7
- ・ 第1回ワークショップふりかえりシートご意見 14
- ・ ご質問等への回答 19
- ・ データで見る大塚地区の現状 27
- ・ 課題解決に向けた視点の整理 38
- ・ 第1回ワークショップでいただいたご意見の整理 39
- ・ 本日の検討内容 43

<別冊資料>

- ・ 蒲郡市小中学校規模適正化方針（概要版）
- ・ 蒲郡市公民館のあり方について（概要版）
- ・ 蒲郡市公立保育園のあり方について（概要版）
- ・ コミュニティ施設の事例集

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に大塚地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった” “住み続けたい” と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

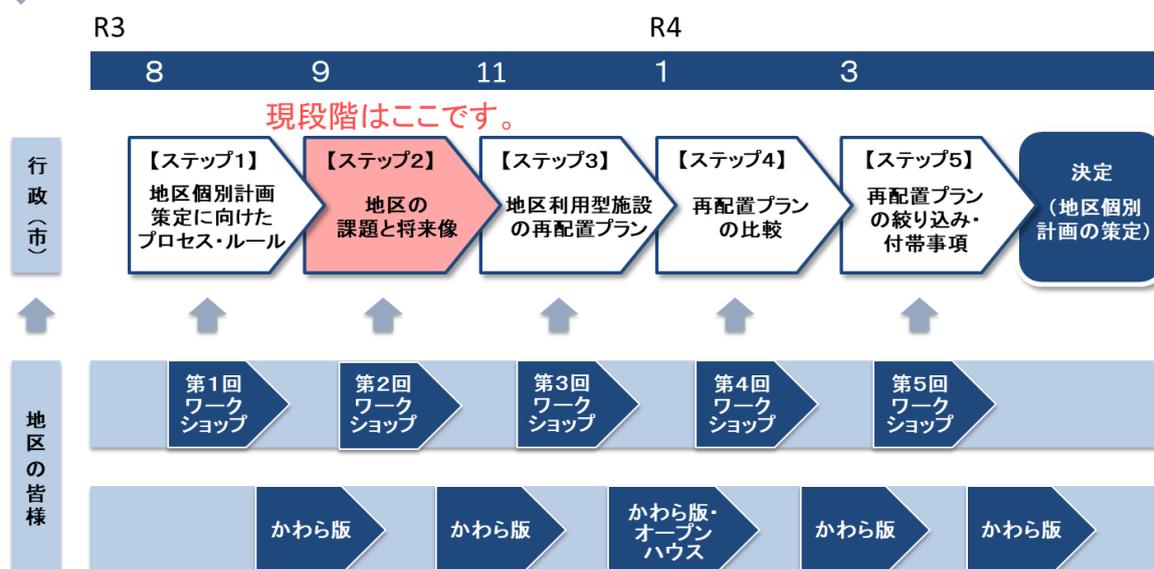
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催を予定しています。

【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和4年3月までに5回開催します。
- 原則、日曜日に開催します。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。ご自宅等からの参加が難しい場合は、大塚中学校にて参加できます。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 大塚中学校に設置された中継会場から一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由に前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場合があることをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第1回ワークショップの結果概要（案）

1 計画策定に向けた検討やワークショップの進め方について

1) 公共施設マネジメントの考え方について

- 公共施設の再編の方針のように、施設の複合化によって効率化したほうがよい。
- 小学校に多様な機能を持たせるという話は、コストを考えるとよいのかもしれないが、複合化することにより各施設の良さがなくなるのは寂しい。元の施設の利点が失われないように配慮してほしい。
- 大塚金野線の整備や一般廃棄物最終処分場の返還など、今後大塚地区に影響のある事がいくつかある。跡地活用など公共施設マネジメントと合わせて考えてもよいのではないか。

2) ワークショップの進め方について

- 今後整備する施設を主に使うこととなる若い世代の意見を尊重したい。
- 色々な分野の方が参加しており様々な意見が聞けることが楽しみだ。今回のグループにはいない他地区の方の意見も聞いて検討を行いたい。
- 全ての回に参加できず、残念だ。また、議論の進捗についていけるか不安だ。
- かわら版は、ひめはる会館やゲンキーなど誰もが目に留まる場所に掲示してあるとよい。かわら版やオープンハウス等以外にも SNS での情報発信があるとよい。

2 地区のまちづくりや公共施設について

1) 地区のまちづくりについて

- 地区に若い世代が少なく、人口も減っているため不安だ。若い世代が移り住んでくれるような地域を作りたい。
- 若い世代が大人になると他の地区へ出ていってしまう。働く場所がないことや買い物・交通等の不便さが原因ではないか。
- 小学校のクラス数が減っている一方で、身近には3人の子どもがいる家庭もある。今後、子どもの数はどうなっていくのかと心配だ。
- みかん農家の後継者がおらず、農家が減っている。蒲郡の重要な産業として残していきたい。
- 相楽町はみかん農家が多く元気な高齢者が多かったが、農業や生活スタイルも変わってきているため、昔と事情は変わってきていると思う。
- 地域振興が遅れているという不満はない。人がよく良い地域だと思う。
- 海と山が近く自然が多いのが魅力だ。公共施設も自然のよさを活かせば魅力につながるのではないだろうか。
- 若い世代には不便があるかもしれないが、高齢者には住みやすい地区だと思う。
- 高齢者のことを考えると、くるりんバスの本数や路線を増やすのはどうか。みんなが使いやすいバスになると車がなくても便利に暮らせるようになる。
- 市内でも外国人が多い地区ではないだろうか。外国人との共生も考える必要があるだろう。
- 施設の統合により避難所が減ってしまうと災害時に機能するのか疑問だ。避難所は複数あったほうが、多くの人が避難しやすいだろう。避難所の数と避難所までの距離は公共施設の配置を考える視点として必要だ。
- 資料を見ると大塚小の周辺まで災害の危険区域になっているようだ。想定

外といわれることが増えているので、子ども達の安全確保や市民の避難所としての観点から学校の立地に不安がある。高台などの安全な場所に施設を建ててほしい。

- 小学校には防災の備蓄品が準備してある。台風などの一時的な避難所としては小学校で問題ない。
- 大塚地区は狭隘道路が多く防災の観点からも不安がある。旧道は道が狭く歩道も整備されていない部分があるが、交通量が多く危険だ。新しい公共施設には安全に通える道路を整備してほしい。

2) 公共施設の現状や今後について気になること

■ 公共施設全般

- 公共施設が複合化することで、多世代が交流できるとよい。高齢者と孫が遊べたり、若者が発表をしたり、日々の生活の中で交流が生まれる施設となるとよいが、その場合、遠方の方への配慮が必要だろう。
- 1つの場所で保育園から中学生まで世代間交流ができる施設となるとよい。施設を利用する子ども達が農家や地域の魅力を経験することで、地元への愛着が湧き、将来的に地域に留まってくれるかもしれない。
- 保育園から小学校、中学校へと環境が変わる良さもある。子どもにとってはお兄ちゃんお姉ちゃんになるという気持ちが芽生える。
- 保育園と小学校が一体化するとお迎えも安心で楽だ。先生と話をする場もでき、メリットが多そう。
- 地理的に他の地区と離れているので、地区内で公共施設を複合化する方向になると思う。
- 豊橋や新城では学校と公民館が併設されており、夜は体育館を地域の人が使うなど上手に使っていると聞くので、大塚でも見習うとよい。
- 子どもが遊ぶ場所がないため、日陰の空間や室内の遊び場など子ども達の

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

居場所があるとよい。また、今後部活動がなくなるのであれば、外部のサークルや指導員、公民館、児童館などを活用し、自宅以外に過ごすことのできる場所が欲しい。

- 施設の再編を考えるうえで、駐車場は重要だ。
- 保育園と公民館の一体化ならば駐車場が十分確保できるのではないだろうか。

■ 小中学校

- 子どもの数が減っており、1学年1クラスという状況なので小中学校は一緒にするとよい。小学校から中学校へと同じメンバーで進学するので一貫校にしてもよいだろう。
- 人数が少ないためか、子ども同士の仲が良い。特に問題がないのであれば、小中一貫校にしてもいいと思う。
- 地区の真ん中にある蒲郡東高校付近の基盤整備された場所に小中一貫校を整備してはどうか。
- 大塚は分村合併をしたため小中学校が地区の東端に立地しており、配置のバランスが悪い。西大塚や相楽の子どもは通うのが大変だろう。体力がつきよい面もあるが、冬場や雨の日は家族が送迎することもあるようだ。
- 小学校は通学路の安全性が心配だ。道が狭かったり、危険な場所もある。交通安全だけでなく、冬は道が暗くなるので防犯の面でも心配だ。
- 年上の子が下の子の面倒をみながら通学しているのを見るとかっこいいと思う。異年齢の子ども達の交流は新しい刺激があり、良い効果があるのではないか。
- 現在学校に通う子どもに建物について聞いたが、特に不満はなく楽しく勉強しているようだ。
- 入学する児童の数が減っている。かつては各学年2クラスあったが、今年

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

の1年生は1クラスだ。既存の規模や教室数が必要なのだろうか。教室を大きくとることも考えられるだろう。

- 部活動が少なく、小学校の文化部は吹奏楽しかない等入りたいと思う部活がなさそう。多様な楽しみが地域にあると放課後の過ごし方が充実するのではないか。
- 学生時代の部活動のメンバーとは今でも交流があり、強いきずながある。今は同級生同士や先輩後輩の繋がりが希薄化しているように感じるので、地域の様々な人材が地区の子どもの繋がりの機会に力を添えられるとよい。
- 校庭の遊具が減っている。ゲームなどで外で遊ぶ機会が減っており、ますます日に当たる機会が減るのではないか。

■ 保育園

- 0～1歳の低年齢児保育がないことは、子育て世代が移り住まない決定的な要因となるだろう。今後も共働き世代は増えるので低年齢児保育もできる保育園にしてほしい。
- 低年齢児や延長保育、一時預かり、病児保育など保育サービスが充実していない。サービスが充実したら、思うように働けるのにと感じる親は多いのではないか。
- 大塚西保育園の園児数が減少しているため、大塚保育園と合併してもいいのではないか。2園を集合することで、低年齢児保育や保育時間などのサービスを向上するとよい。
- 保育園は、子ども達や親の交流を増やすために合併してもよい。
- 保育園が老朽化しており、地震などを考えると不安だ。塩津地区のように施設の集合をすることで大塚も1つにして新しくなるとよい。
- 施設を一体化することで、渋滞や駐車場不足、マナー違反による周囲へ

の迷惑などお迎えの車が心配である。

- 西大塚からみると東に施設が集中しており、子どもの送り迎えが基本的に車となる。電車通勤をしているため、一度家に車を取りに行くことになる。どこの立地でも難しいと感じている。
- あさひこ幼稚園の園児が毎月さがらの森に来る。大塚でも自然に触れ合う環境での教育があるとよい。新しく保育園を整備するのならば、蒲郡東高校の前など海や山の自然を感じる場所が良いが、災害を考えると適地は難しい。

■ 公民館

- 公民館で活動している子ども向け教室が一つの子どもの居場所となっている。高齢者向けの教室もあり、ぜひ活用してほしい。
- 公民館は料理教室やカラオケなどが開かれており、情報発信の場や様々な行事の会場として利用されている。高齢者にとっては地域の繋がりを生む拠点として機能している。
- 公民館でラジオ体操を行っているが、他の活動をあまり見ない。ほかにどのように利用されているのだろうか。
- 中学生までは本を借りるために公民館内の図書館分室を利用していたが、若者が公民館を利用する機会はない。
- 東大塚いこい会館では日本語教室や多文化交流が行われているが、公民館も地域の外国人が利用し交流が増えるとよいと思う。
- 昔は小中学校と同じように地区の東寄りに立地していたが、現在は地区の中央にあるので場所的には良いと思う。3階建てでエレベーターもあり充実している。
- 公民館の建物の耐久性や設備の老朽化が気になるが、普段利用している人はどう思っているのだろうか。

■ 児童館

- 既に児童館は東大塚いこい会館（集会所）と複合施設になっている。高齢者のいきいきサロンを集会所で行っており、児童館の親子と一緒に体操したり、複合施設を上手に使っている。他地区には広まらなかったが、複合施設はよいと思う。
- 児童館は町民以外にも御津町からの利用者がいる。施設内から電車が見えることが人気の理由のようだ。
- 共働き・シングル家庭の増加に伴い児童館の利用者が多くなっている。長期休暇中は特に多いが、地区内に1つしかなく、規模や運営が心配だ。混雑しているために家で遊ぶしかないという状況もある。

■ 児童クラブ

- 働く母親が多いので、児童クラブの利用者も増えている。おおつか児童館内の児童クラブは部屋が狭く、全員が入れないため、併設する集会所のスペースを借りている状況である。
- 児童クラブは高学年が小学校、低学年が児童館で実施されているが、兄弟で利用している家庭は大変ではないだろうか。1か所にまとまると便利になる。
- 児童館と小学校の児童クラブをなるべく同じ状況にしてほしい。児童館の方がおもちゃが充実しているなどの違いがある。

第1回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- いろんな人が大塚に対して、どう思っているかを聞いて、賛成したり、自分の意見や考え方に変化が起きたので良い経験になったと感じた。そして、ワークショップについて興味を持てたので次回は自分の意見をまとめてはっきりと発言したいと思いました。
- グループワークすることで様々な立場の人の意見を聞くことができたことです。また、私は大塚で生まれ育ちましたが、大塚の歴史は詳しくなかったので、知ることができて良かったです。
- 他人の意見に耳を傾ける(話を否定しない)を前提の話し合いで安心できた。
(児童館+保育園)(小学校+中学校)を一貫した建物になったら良いと思った。
グループ参加者全員が色んな職業、立場の方が居て良かった。
今回欠席された方が2名居たけど話が盛り上がり楽しかった。
- 年代・立場の異なる方々でしたが、様々な意見が出て、自分では気が付かなかった視点でまちづくりを考えることができた。
小中学校の一貫校。また幼稚園と小学校の統合では、駐車場が混み合うことは盲点であった。大塚保育園を利用されている方が現状でも混み合っており、周辺で渋滞も発生していると聞いたので、配置計画で考慮すべき点が分かり良かった。
私はAグループでしたが、東大塚の方が固まってしまった他のグループでは「保育園・小中学校から遠い相楽や西大塚の意見が聞きたい。」、また「若い人の意見を尊重してほしい。」と年長者からの意見があったのも嬉しく思った。
- それぞれの立場で考えられる今後の公共施設のイメージ意見を聞くことが

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

でき、気が付く事があった。

世代、生活環境、男女差等で見ると視点が違う様々な考えが出てきた事は、スタート地点に立ったのではないかと思った。

- 自分の知らなかった事や、色々な意見を聞く事が出来、とても勉強になりました。少しでも大塚がより良い町になればと思いました。
- 皆さんが抱えている大塚地区の問題が色々出てきて良かったと思います。最終処分場の話やバイパスの話など若い世代には知られてない情報も入ってきたので参考になりました。
- 大塚地区の色々な年代の方や子育て支援についても、自分の想像が及ばない意見を聞いて、施設老朽化（トイレとか駐車場）今後の公共施設の統合や分散とかも、考えさせられる意見が出て有意義でした。
- 普段話す機会がない年代の方と話し合うことで様々な意見が聞けて勉強になりました。
- ファシリテーターの方が上手に進行してくださったので、意見を言いやすかったです。グループ討議でいろいろな視点が出てきて、「言われてみればそのとおり」と感じる事が多く、視野が広がりました。
- 老若男女の意見が聴けて良かったです。
- 普段話す機会のない、異世代の人たちと共通の話題について意見交換ができたこと。とくに子育て世代の人の保育園における育児問題や、小中学校における教育問題、部活動等、現状と課題が理解できました。只、PCに向かって話していて、相手の顔が見えないので、相手にうまく伝わっているのか場の雰囲気や把握できず、話が一方通行になっていなかったか不安でした。これがオンライン会議の限界かもしれません。
- 現状を認識できたこと
 - (1)共働きにより、子育て支援が重要なこと
 - ア.低年齢児保育
 - イ.放課後の子どもの居場所等
 - (2)75歳（高齢者）でも仕事をしている（自営が多い）

2 内容について言い足りなかったこと

- 対話時間が不足、次回に話します。第一回目なので深い話し合いは出来ないのは仕方ないと思います。
- かわら板の掲示場所は、大塚地区内の病院（すみれクリニックさんや、中村歯科さんなど）もいいかもしれません。
他グループで、「大塚西保育園の閉園のうわさがある。」という意見をみました。大塚地区では0～1歳児保育もなく、大塚保育園の延長保育も18:00までと他の保育園よりも不便なのに、保育園が一つ減るとなるとさらに不便になるなと思いました。大塚西保育園が閉園になると、大塚保育園、小中学校が東大塚に固まっており、相楽・西大塚の子供は通学に時間がかかる。特に夏場の通学が長いと体調を崩さないか心配。西大塚であれば、公民館で、水筒に水を補給できるなどの休憩ができるといい。難しいとは思いますが再配置の際には、保育園・小中学校を分散配置もいいかもしれない。防災の面でも避難所となる保育園・小中学校の分散はよいかもれない。
- 若い人から高齢者まで幅広い世代での話し合いができる事を希望します。特に若い人の意見を多く拾って欲しいです。
- 午前に参加した、生涯学習計画ワークショップの中でも議論になってました公民館の利用法、老朽化に伴う話も地域の問題でもあるなあと感じながら聞いていました。
先程は子育てする中での疑問に思うことを述べましたが、公民館施設の使い方もこれからの課題になるかな？
未満児保育、小中一貫、学校の放課後の在り方、公民館施設の使い方、生涯学習、地元にも戻ってくる仕組み作りがこれから解決されていくといいなと思います
- 公共施設を使用するための、交通アクセスとか歩行者の安全とかが、出て来る事が良いかもです。自家用車での送り迎え問題とかもね。
- グループ討議で全部言えたので、言い足りないことはないです。

- 大塚学区の将来として、今後 10～15 年の間に、大塚-金野線の事業化、最終処分場の地元返還がほぼ決定されており、それに今回の公共施設マネージメントと避難所等の防災計画をリンクさせなければなりません。大塚-金野線は東大塚地区のほぼ中央を東西に分断する形での縦断通り抜け道路であり、地元の生活に大きな影響、変化をもたらします。生活道路ではないので通学時の児童の安全をどう確保するのかといったことも公共施設マネージメントで検討する必要があると思うし、また最終処分場を公共施設移転先として何等かの形で検討できないか。交通アクセスがよくなり他地域とのアクセスが容易となるから、高波等の自然災害の心配のない大規模避難所としての機能を持たせた公共施設として計画できないか等の検討課題があると思います。

3 今日のワークショップの進め方について

- 約 1 時間半を 8 人で話し合うのは時間がないと思いました。ですが今日は欠席者もあり、4 人で議論をしたが時間的にはちょうど良かったと思いました(議論する内容にもよる)。それに司会者の方も相槌や反応を示してくれたので、緊張はしていたが話しやすかったと感じた。ですが、他の方の反応もわかるようにマイクをずっと入れておくと環境音やノイズが入ってしまうかもしれないのでスタンプや定型文などを作れば、議論がより活性化すると思いました。全体的には今回のような進め方で良いと思いました。
- 進め方については、良いと思います。
- 葛山さんの進行が、とても自分にあっていたので話しやすかった。
 - ・話し合いの時間をもう少し長め(90分)が良い。※進め方ではありませんが、、、(初 zoom 使用)
 - ・今回スマホで参加。画面が小さいので全員のお顔が1画面で見れずやりにくかった。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

・マイクは常に「オン」状態にしても良いのでしょうか？話し合いの中でとっさに話す時にスマホだとオン状態にし難かった。

・パソコンでの参加も試みましたが思うように扱えずスマホになりました。次回はパソコンでやりたいと思います。

- Aグループは、ファシリテーターの方がうまくフォローをしてくださったので、円滑に話げできた。

5回同じメンバーでの話し合いですが、他の参加者とも話してみたいと思いました。

- ワークショップ：もっと細やかで具体的なテーマ設定をして、それについて絞って話し合う様にしたほうが組み立てパーツが沢山集まるような気がします。単位回テーマは複数でもいいと思います。

「皆さん何かご意見は」、では結論を見据えて話をしてしまう様な気がします。それでは、目的までの道筋が漠然としたイメージだけになってしまうのではないかと思います。

- とてもスムーズに沢山の意見が出て、円滑に進んだと思います。
- 特に問題はなかったと思います
- 進行して頂いた名畑様が、上手に発言された意見をくみ取り、他からの意見までも上手く引き出して下さいました。次回も楽しみにしております。
- Zoom は初めて利用したので緊張しましたが、ファシリテーターの方が、話しやすいよう進行してくれて良かったです。
- 時間通りの進行で助かりました。
- 名畑さんのスムーズな進行、素晴らしかったです
- サポーターさんが皆さんの意見をよくまとめており、良かったと思います。ご活躍をお祈りいたします。
- ファシリテーター様の御蔭で気楽に参加（出席）させていただきありがとうございました。次回もお世話になります。

ご質問等への回答

1 ワークショップの進め方について

- マイクは常に「オン」状態にしても良いのでしょうか？
話し合いの中でとっさに話すときにスマホだとオンにし難かった。(ふりかえりシートより)

お使いの機器によっては、マイクが皆さまの周囲の音を拾ってしまうことも想定されます。グループワーク中は操作方法の慣れ不慣れやご自身の周辺環境に合わせて、オンオフをうまく使い分けていただけたらと思います。

なお、事務局の説明や全体発表の際はマイクのオフにご協力ください。

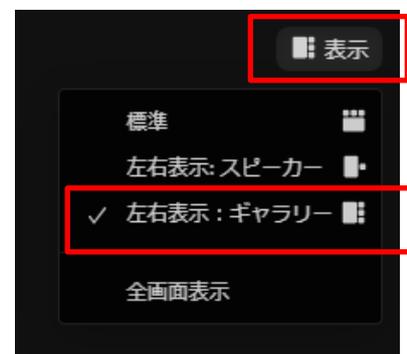
- PCに向かって話していて、相手の顔が見えないので、相手にうまく伝わっているか場の雰囲気把握できず、話が一方通行になっていなかったか不安でした。(ふりかえりシートより)
- 他の方の反応もわかるようにマイクをずっと入れておくと環境音やノイズが入ってしまうかもしれないのでスタンプや定型文などを作れば議論がより活性化すると思いました。(ふりかえりシートより)

PC版Zoomの表示画面の変更方法やスタンプの送信方法を以下に記載しましたので、グループワークの中でご活用ください。

【表示画面の変更方法】

- ①画面右上の「■表示」マークをクリック
- ②表示方法をギャラリーに変更することで、画面共有中も他の人の様子を表示できるようになります。

ただし、表示できる人数には限りがありますので、カメラ映像上下に現れる「△▽」ボタンをクリックして表示画面を切り替えてください。



まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【スタンプの送信方法】

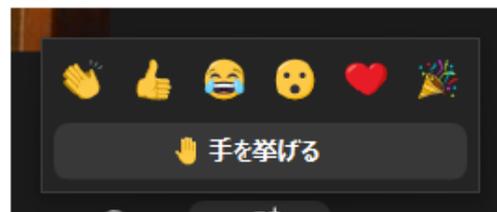
①マウスを画面下に移動すると現れるメニュー一覧より

「反応」ボタンをクリック



②右のスタンプ一覧が表示されるので、

送信したいスタンプをクリック



※送信したスタンプは一定期間経過後に自動的に消えていきます。

- ワークショップ：もっと細やかで具体的なテーマ設定をして、それについて絞って話し合う様にしたほうが組立パーツが沢山集まるような気がします。単位回テーマは複数でもいいと思います。（ふりかえりシートより）

前回のワークショップでは初回ということで、ざくばらんに大塚地区と地区の公共施設について意見交換をしていただきました。今後は、前回ご説明した検討のステップに沿って設定されたテーマごとに話し合いを行っていただきます。なお、1つの回で話し合ってくださいテーマはおおむね2点を予定しています。限られた時間の中でそれぞれのテーマについて熟議いただくのは大変だとは思いますが、積極的なご発言を期待しております。

- 若い世代から高齢者まで幅広い世代の話し合いができる事を希望します。特に若い世代の意見を多く拾ってほしいです。（ふりかえりシートより）

今回のワークショップでは、20代から80代まで幅広い世代、立場の方にご参加いただいております。話し合いを行うグループもできる限り様々なお立場の方と意見交換していただけるよう調整をさせていただきました。

また、地域のこれからの担う若い世代の意見は事務局でも重要であると認識しています。そのため、各学校や保育園にもご協力いただき、開催のご案内をさせていただきました。

- かわら版は、ひめはる会館やゲンキーなど誰もが目に留まる場所に掲示してあるとよい。かわら版やオープンハウス以外にもSNSでの情報発信があるとよい。
- かわら版の掲示場所は、大塚地区内の病院（すみれクリニックさんや中村歯科さんなど）もいいかもしれません。（ふりかえりシートより）

かわら版は広報がまごおりとともに地区内の全戸に配布する予定です。あわせて、地区総代の皆さまとご相談をし、地区毎に掲示板等で掲示していただくこととなりました。

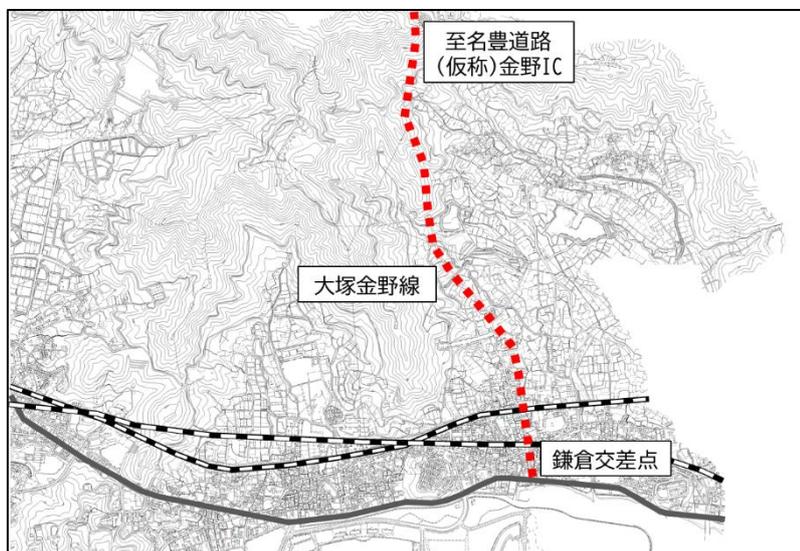
SNSでの情報発信につきましては、市公式LINE（ライン）の活用が考えられますが、市内全域の方が登録をしていることや発信できる情報量に限りがあることから、現時点では市公式LINEを通じた発信は考えておりません。

2 大塚地区や公共施設に関して

- 大塚金野線の整備や一般廃棄物最終処分場の返還など、今後大塚地区に影響のあることがいくつかある。跡地活用など公共施設マネジメントと合わせて考えてもよいのではないか。

【大塚金野線について】

大塚金野線は大塚町の鎌倉交差点から蒲郡バイパスの金野IC（仮称）を結ぶ都市計画道路として整備が予定されています。愛知県が建設事業を行っており、現在計画の具体化に向け、東海道本線と交差する部分について地形測量や交差部分の構造を含む道路の設計、JRとの協議を進めているとのことです。



まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【一般廃棄物最終処分場について】

一般廃棄物最終処分場はあと10年程で埋め立てが完了する予定ですが、埋め立て完了後直ちに土地利用ができるわけではなく、処分場から発生するガスや浸透水の水質が安定するまで維持管理を行う必要があります。維持管理期間ののち跡地活用ができるようになりますが、地下に多量の廃棄物が埋められているため、他自治体ではグラウンドや公園として活用したり、太陽光発電所として利用することが多いようです。

大塚地区にある一般廃棄物最終処分場については土地を蒲郡市が所有しており、跡地の利用方法について現段階で決定していることはありません。施設の廃止時期になりましたら他自治体の事例等を参考に検討を行う予定です。

- 大塚地区は市内でも外国人が多い地区ではないだろうか。これから考えると、外国人との共生も考える必要があるだろう。
- 東大塚いこい会館では日本語教室や多文化交流が行われているが、公民館も地域の外国人が利用し交流が増えるとよいと思う。

市内に居住する外国人の割合を以下に示しました。ご意見いただいた通り、大塚地区は市内でも外国人の割合が多い地区であることが分かります。

地区名	全体人数	うち外国人人数	外国人割合
大塚地区	6,553名	292人	4.5%
三谷地区	13,199名	448人	3.4%
蒲郡北地区	12,392名	150人	1.2%
蒲郡南地区	16,760名	221人	1.3%
塩津地区	11,179名	653人	5.8%
形原地区	15,331名	336人	2.2%
西浦地区	5,686名	34人	0.6%
市内全体	81,100名	2,134人	2.6%

(平成27年度国勢調査より作成)

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

また、市内ではボランティアが主体となり3つの日本語教室が運営されています。そのうち東大塚いこい会館で実施されている大塚教室では、大塚や三谷に住む小中学生を中心に、毎月2回生活のために必要となる初級日本語の勉強や高校受験に向けた準備をしています。



- 豊橋や新城では学校と公民館が併設されており、夜は体育館を地域の人を使うなど上手に使っていると聞くので、大塚でも見習うとよい。

蒲郡市でも、学校体育施設開放事業として平日夜や休日に学校の体育館やグラウンドを地域のスポーツ団体に開放しています。大塚地区でもバレーやバスケットボール、サッカーなどの団体に活用されています。詳しい利用状況については、資料集p.18をご確認ください。

また、ご意見いただいた新城市の作手小学校のほか、全国には学校と公民館を複合化することで、地域活動で調理室などの特別教室を使用できる施設が増えています。先行して検討が進んでいる塩津地区や西浦地区でも、調理室や図書室、音楽室などを地域の皆さまと共有することで、休日や夜間の利用や地域交流活動での活用を見込んでいます。



地域開放する家庭科室のイメージ
(西浦地区基本計画書より)

他自治体での先進事例をコミュニティ施設の事例集としてまとめましたので参考にしてください。

- 低年齢児や延長保育、一時預かり、病児保育などの保育サービスが充実していない。サービスが充実したら、思うように働けるのにとする親は多いのではないか。

市内で提供されている保育サービスの概要や実施園の一覧を以下に示しました。検討の参考にさせていただければ幸いです。

【一時預かり】

保護者の方の病気やケガ、就労、看護などの事由で緊急的又は一時的に保育が必要な時に利用できる制度です。育児に伴う心理的・肉体的負担軽減のため（リフレッシュ）の利用もできます。市内の公立保育園6か所で実施しています。

【休日保育】

保護者などの就労のため、日曜・祝日にも保育が受け、健康状態などに問題がなく、集団保育が可能な児童を指定の保育園にて預かる制度です。市内の保育園・こども園に入所する児童（1歳児から5歳児）を対象に中部保育園にて実施しています。

【病児・病後児保育】

保護者の方が就労などで休めない時、病気や病気の回復期の子どもを預かる制度です。利用時点で小学校・保育園・幼稚園などに通っている満1歳から小学校6年生までの児童を対象に実施しています。形原町にある民間老人ホームに併設された「おひさまキッズ」に委託しており、病児・病後児に対応するため、保育士のほか看護師を配置し、提携医療機関と連携のもと保育を実施しています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【市内公立保育園の実施事業一覧】

	受入年齢	延長保育	休日保育	一時預かり
大塚保育園	2歳児から	午後6時まで		
大塚西保育園	3歳児から	-		2歳児から
三谷東保育園	生後6か月から	午後7時まで		
三谷西保育園	生後6か月から	午後7時まで		生後6か月から
東部保育園	2歳児から	午後6時まで		
府相保育園	生後6か月から	午後7時まで		生後6か月から
南部保育園	生後6か月から	午後7時まで		
北部保育園	生後6か月から	午後7時まで		
西部保育園	生後6か月から	午後7時まで		
中部保育園	生後6か月から	午後7時まで	○	
塩津保育園	生後6か月から	午後7時まで		生後6か月から
形原北保育園	3歳児から	午後6時まで		2歳児から
形原保育園	生後6か月から	午後6時まで		
形原南保育園	生後6か月から	午後7時まで		生後6か月から
西浦保育園	生後6か月から	午後6時まで		

- 公民館でラジオ体操を行っているが、他の活動をあまり見ない。ほかにもどのように利用されているのだろうか。

公民館は市民の社会教育の場として設置された施設であり、市や公民館が主催する生涯学習講座や地域住民のサークル活動の場、地域の集会等の場として利用されています。

今年度も生涯学習講座としてドライフラワー教室等が開催されました。大塚公民館で活動している定期教室・サークルの一覧については資料集p.30に掲載していますのでご確認ください。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 大塚は分村合併をしているため小中学校が地区の東端に立地しており、配置のバランスが悪い。

分村合併前の大塚地区の範囲と現在の大塚町・御津町の境界を青色の線で示しました。ご意見いただいた通り、現在は小中学校が地区の東端に位置していますが、当時は大塚地区の真ん中に近い位置だったことが分かります。



データで見る大塚地区の現状

1 地区の特色

- 大塚地区は市東部に位置し、東海道本線の三河大塚駅を中心に市街地が形成されています。海岸から東海道本線沿線にかけては住宅地を中心とした市街地が広がり、その北側は主に農地として利用され、最北部は森林地帯となっています。海岸には複合リゾート施設が立地しており、市の主要観光地の一つとなっています。また、森林地帯にはさがらの森や橘丘里山緑地といったレクリエーション空間としても活用される里山が残されており、人と自然が共生した地区となっています。

2 地区間公共施設保有量比較

- 大塚地区の地区利用型施設の人口1人あたり延べ床面積は、2.35 m²/人と市全体（2.00 m²/人）と比較して、17.5%多い状況です。
- 人口は、6,553人と7地区中2番目に少なく、市全体の8.1%を占めています。

地区	人口(H27)	施設区分	公共施設保有面積(m ²)	人口1人あたり面積(m ² /人)
大塚	6,553	地区利用	15,400	2.35
		全市利用	18,859	2.88
		総計	34,259	5.23
三谷	13,199	地区利用	25,863	1.96
		全市利用	6,554	0.50
		総計	32,417	2.46
蒲郡北	12,392	地区利用	27,609	2.23
		全市利用	50,609	4.08
		総計	78,218	6.31
蒲郡南	16,760	地区利用	34,169	2.04
		全市利用	28,332	1.69
		総計	62,501	3.73
塩津	11,179	地区利用	16,924	1.51
		全市利用	8,584	0.77
		総計	25,508	2.28
形原	15,331	地区利用	26,088	1.70
		全市利用	9,545	0.62
		総計	35,633	2.32
西浦	5,686	地区利用	16,013	2.82
		全市利用	12,964	2.28
		総計	28,978	5.10
市全体	81,100	地区利用	162,066	2.00
		全市利用	135,447	1.67
		総計	297,513	3.67

※ 人口は、平成27年度国勢調査に基づき算出

※ 公共施設保有面積は、令和2年度蒲郡市公共施設白書をもとに作成

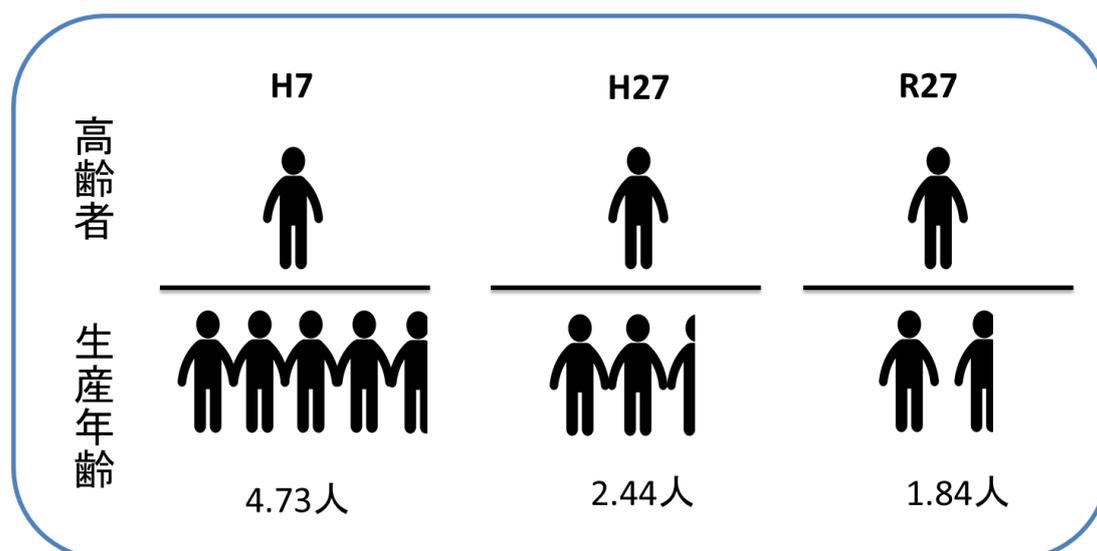
3 人口

- ・ 国勢調査のデータによると、地区内の人口は平成 7 年から平成 27 年までの 20 年間で、約 800 人 (+14.1%) 増加しています。高齢者人口については 760 人程度増加しており、他の人口区分については横ばいの状況です。少子高齢化が進むなかで地区内の年少人口が減少していない要因のひとつとして、平成 18 年度の海陽学園の開校が考えられます。

大塚地区の人口推移

人口区分		平成 7 年	平成 17 年	平成 27 年	令和 7 年	令和 17 年	令和 27 年
高齢者人口 (65 歳以上)	目標値			1,536 人	1,628 人	1,664 人	1,670 人
	実績値	827 人	1,145 人	1,588 人			
生産年齢人口 (15~64 歳)	目標値			4,006 人	3,751 人	3,431 人	3,081 人
	実績値	3,915 人	3,828 人	3,882 人			
年少人口 (14 歳以下)	目標値			743 人	665 人	655 人	676 人
	実績値	1,003 人	890 人	1,083 人			
総計	目標値			6,285 人	6,044 人	5,750 人	5,427 人
	実績値	5,745 人	5,863 人	6,553 人			

- ※ 目標値は、「蒲都市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を大塚地区に適用して算出
- ※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出



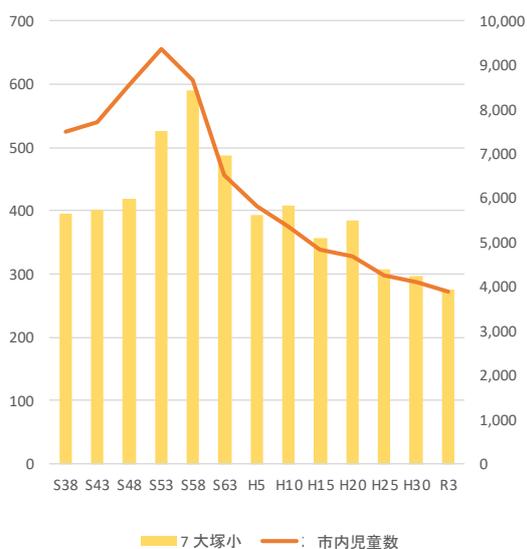
- ・ 地区内の高齢者（65 歳以上）1 人に対する生産年齢人口（15 歳～64 歳）の人数は、平成 7 年当時は 4.73 人だったものが平成 27 年には、2.44 人にまで減少しています。また、令和 27 年には 1.84 人にまで減少する見込みです。

4 各公共施設の利用状況（資料集から抜粋）

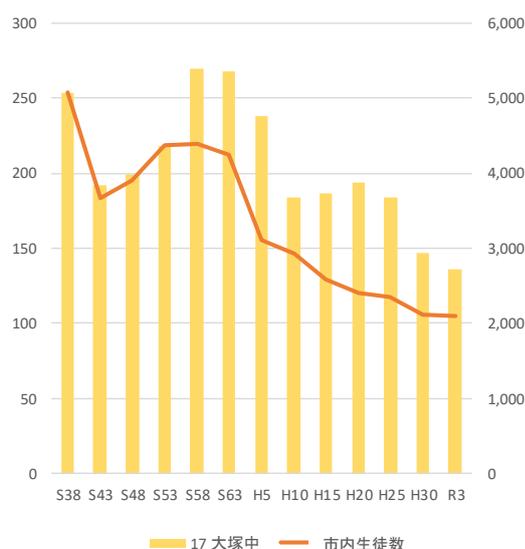
(1) 小学校・中学校の児童・生徒数の推移（資料集p.15）

	S38 (1963)	S43 (1968)	S48 (1973)	S53 (1978)	S58 (1983)	S63 (1988)	H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)	H20 (2008)	H25 (2013)	H30 (2018)	R3 (2021)	S53を基準とした R3の割合
1 蒲南小	1,950	1,954	1,600	1,064	856	591	522	382	367	365	333	332	363	34.1%
2 蒲東小	413	421	499	445	485	375	352	385	345	339	294	284	293	65.8%
3 蒲北小	366	379	455	523	429	293	273	272	298	301	298	323	300	57.4%
4 蒲西小	206	185	156	136	184	140	124	123	92	105	74	67	55	40.4%
5 三谷小	1,393	1,449	810	749	633	469	394	357	372	330	262	215	197	26.3%
6 塩津小	551	581	809	1,066	1,038	808	715	685	654	579	518	527	443	41.6%
7 大塚小	396	402	418	527	590	488	394	408	356	385	308	297	275	52.2%
8 形原小	1,461	1,075	952	955	863	676	647	569	488	500	391	353	362	37.9%
9 西浦小	770	810	852	852	829	628	523	495	399	309	214	245	213	25.0%
10 形北小		447	596	947	846	628	587	499	486	534	570	520	456	48.2%
11 中央小			671	721	661	527	483	412	306	286	334	304	297	41.2%
12 三東小			738	802	755	507	489	467	389	320	320	303	279	34.8%
13 竹島小				575	485	376	314	306	294	331	337	329	340	59.1%
14 蒲郡中	1,991	1,419	1,443	1,061	981	891	651	592	530	487	520	517	443	41.8%
15 三谷中	986	700	718	726	713	705	460	460	410	383	318	294	296	40.8%
16 塩津中	342	269	332	442	495	535	376	351	331	308	317	257	290	65.6%
17 大塚中	253	192	199	218	270	268	238	184	187	194	184	147	136	62.4%
18 形原中	958	726	812	816	836	825	621	653	517	478	517	474	447	54.8%
19 西浦中	545	358	405	452	399	414	303	245	227	196	148	101	122	27.0%
20 中部中				665	699	616	465	450	380	355	338	334	366	55.0%
合計(小)	7,506	7,703	8,556	9,362	8,654	6,506	5,817	5,360	4,846	4,684	4,253	4,099	3,873	41.4%
合計(中)	5,075	3,664	3,909	4,380	4,393	4,254	3,114	2,935	2,582	2,401	2,342	2,124	2,100	47.9%
合計	12,581	11,367	12,465	13,742	13,047	10,760	8,931	8,295	7,428	7,085	6,595	6,223	5,973	43.5%

大塚地区児童数推移(小学生)



大塚地区生徒数推移(中学生)



・市内全体の児童生徒数が最も多かった昭和53年と令和3年を比較すると、大塚地区全体での児童生徒数は55.1%にまで減少しています。(745人→411人)

(2) 学校別児童生徒数 (資料集 p.16)

令和3年5月1日現在

学校	1		2		3		4		5		6		計		
	人数	学級	人数	学級	特別支援学級										
蒲南小	65	2	59	2	63	2	63	2	58	2	55	2	363	12	3
蒲東小	47	2	40	2	53	2	52	2	46	2	55	2	293	12	2
蒲北小	48	2	49	2	39	2	56	2	56	2	52	2	300	12	3
蒲西小	5	1	13	1	11	1	8	1	12	1	6	1	55	6	2
三谷小	29	1	26	1	38	2	39	2	34	1	31	1	197	8	3
塩津小	65	2	59	2	81	3	72	2	84	3	82	3	443	15	5
大塚小	33	1	51	2	44	2	43	2	53	2	51	2	275	11	4
形原小	61	2	66	2	55	2	67	2	53	2	60	2	362	12	5
西浦小	26	1	35	1	28	1	38	2	40	2	46	2	213	9	2
形北小	70	2	83	3	62	2	83	3	70	2	88	3	456	15	5
中央小	58	2	42	2	52	2	43	2	49	2	53	2	297	12	4
三東小	41	2	50	2	47	2	38	1	54	2	49	2	279	11	4
竹島小	50	2	50	2	56	2	59	2	55	2	70	2	340	12	4
計	598	22	623	24	629	25	661	25	664	25	698	26	3,873	147	46

学校	1		2		3		計		
	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	特別支援学級
蒲郡中	159	5	138	4	146	5	443	14	3
三谷中	92	3	104	3	100	3	296	9	2
塩津中	109	3	86	3	95	3	290	9	3
大塚中	42	2	44	2	50	2	136	6	2
形原中	149	5	157	5	141	4	447	14	3
西浦中	46	2	45	2	31	1	122	5	2
中部中	108	3	120	4	138	4	366	11	3
計	705	23	694	23	701	22	2,100	68	18

※各学年の人数には、特別支援学級に通う児童生徒の数を含む

【蒲郡市における学校の標準規模について】

◎小学校 : 12~18 学級

区分	学級数	特性
過小規模	1~5学級	複式学級が存在する規模
小規模	6学級	クラス替えができない規模
準小規模	7~8学級	全学年ではクラス替えができない規模
	9~11学級	半分以上の学年でクラス替えができる規模
標準規模	12~18学級	全学年で2クラス以上の学級編成ができ、クラス替えができる規模
大規模	19~30学級	校舎面積、運動場面積等が充足されている場合は、標準規模と顕色のない教育活動を展開できる規模
過大規模	31学級~	児童一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる可能性がある規模

◎中学校 : 9~18 学級

区分	学級数	特性
過小規模	1~2学級	複式学級が存在する規模
小規模	3学級	クラス替えができない規模
	4~5学級	全学年ではクラス替えができる学年が少ない規模
準小規模	6~8学級	全学年でクラス替えができ、同学年に複数教員を配置できる規模
標準規模	9~11学級	全学年でクラス替えができ、同学年での複数教員配置や、免許外指導(講師含む)の解消が可能な規模
	12~18学級	専任の教科担任(正規教職員)を配置しやすい規模
大規模	19~30学級	校舎面積、運動場面積等が充足されている場合は、標準規模と顕色のない教育活動を展開できる規模
過大規模	31学級~	児童一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる可能性がある規模

(参考) 国における標準規模 : 小中学校ともに「12~18 学級」

(蒲郡市小中学校規模適正化方針より抜粋)

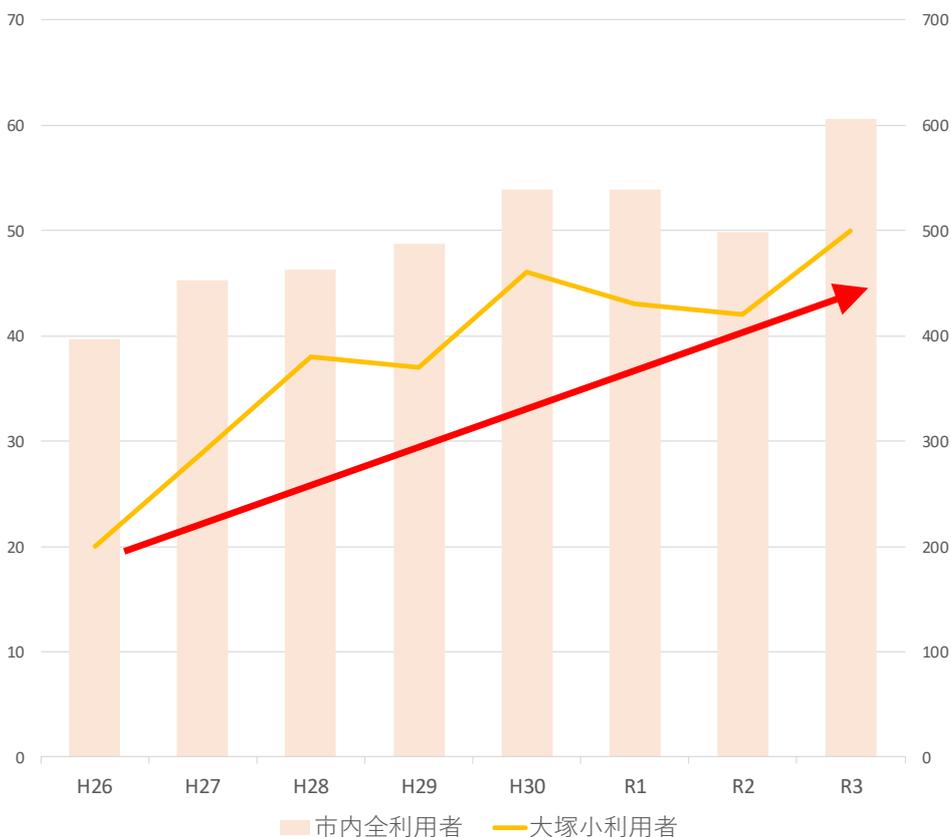
- ・現在、大塚小学校は1年生のみ1学級の計11学級、大塚中学校は全学年2学級の6学級となっており、それぞれ市が定める準小規模校に分類されます。

(3) 児童クラブの推移 (資料集 p.17)

対象小学校	実施場所	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R3対象学年
大塚小学校	おおつか児童館	20	29	38	37	35	28	26	28	1~2年生
	大塚小学校	-	-	-	-	11	15	16	22	3~6年生
三谷東小学校	三谷東小学校	28	34	40	39	38	40	41	51	全学年
三谷小学校	みや児童館	28	31	16	19	18	23	27	27	全学年
竹島小学校	竹島小学校	30	35	32	48	52	50	35	40	全学年
蒲郡南部小学校	がまごおり児童館	42	48	50	51	50	41	43	41	1~2年生
	蒲郡南部小学校	-	-	-	-	18	16	15	34	3~6年生
蒲郡東部小学校	蒲郡東部小学校	40	38	37	35	43	37	36	38	1~3年生
	東部公民館	-	-	-	-	-	17	14	17	4~6年生
蒲郡北部小学校	蒲郡北部小学校	35	33	39	37	44	36	33	37	1~2年生
	ちゅうぶ児童館 (北部小)	-	-	-	-	7	10	18	26	3~6年生
蒲郡西部小学校	ちゅうぶ児童館 (西部小)	10	11	11	13	14	15	-	-	
	蒲郡西部小学校	-	-	-	-	-	-	15	13	全学年
中央小学校	中央小学校	28	41	39	38	32	39	39	59	全学年
塩津小学校	しおつ児童館	62	63	49	43	50	33	28	34	2~6年生
	塩津保育園	-	-	26	29	20	23	15	20	1年生
形原北小学校	形原北小学校	23	30	27	32	34	30	23	41	全学年
形原小学校	形原小学校	36	47	44	40	47	54	50	56	全学年
西浦小学校	にしうら児童館	15	13	15	26	26	32	24	22	全学年
合計		397	453	463	487	539	539	498	606	
うち大塚小学校利用者		20	29	38	37	46	43	42	50	

各年度3月1日時点 (R3のみ5月1日時点)

児童クラブ利用者数推移



・大塚地区ではおおつか児童館 (1~2 年生)、大塚小学校 (3~6 年生) の2か所で児童クラブを実施しており、年々利用者数は増加しています。

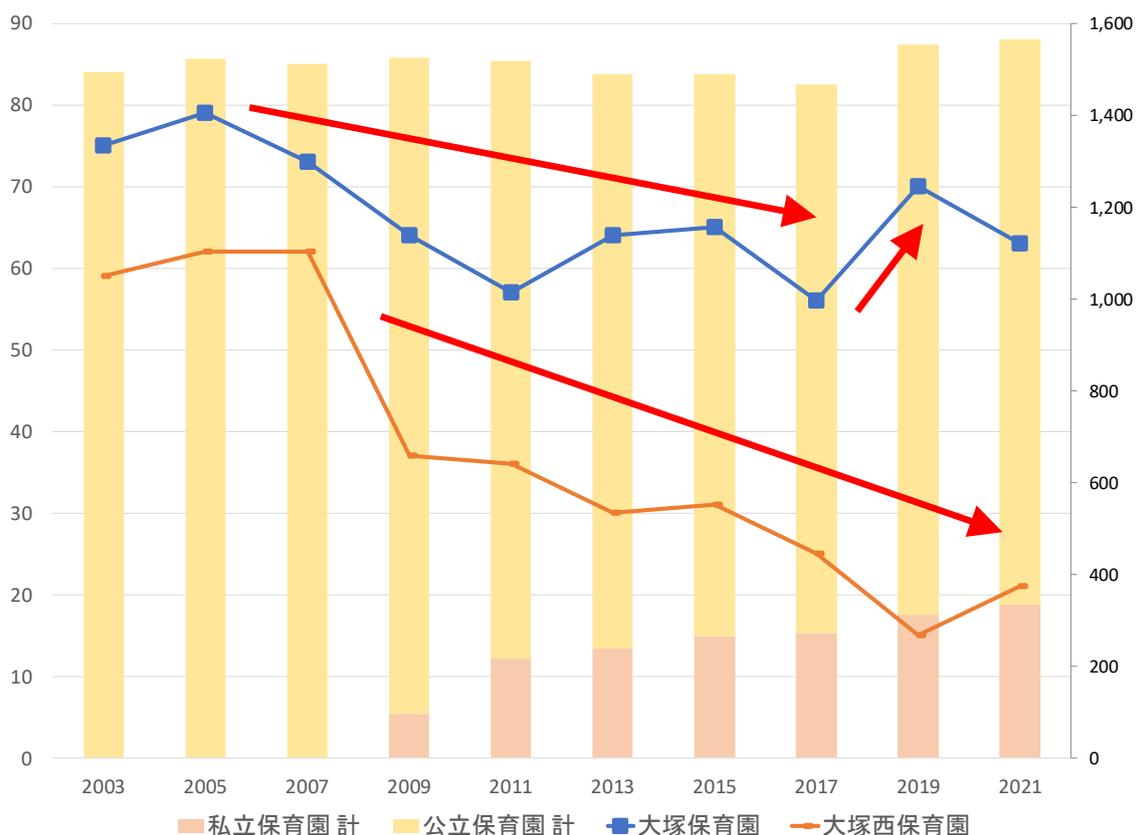
(4) 保育園の園児数の推移 (資料集 p.25)

保育園名	R3年度 定員	H15年度 2003	H17年度 2005	H19年度 2007	H21年度 2009	H23年度 2011	H25年度 2013	H27年度 2015	H29年度 2017	R1年度 2019	R3年度 2021
東部保育園	80	69	78	62	70	65	58	57	54	42	63
北部保育園	140	64	56	97	135	130	118	115	101	105	104
西部保育園	70	42	48	42	31	42	34	32	43	44	47
塩津保育園	80	54	67	65	53	44	39	30	29	38	55
大塚保育園	80	75	79	73	64	57	64	65	56	70	63
府相保育園	130	90	113	131	138	120	90	92	100	111	124
三谷東保育園	140	112	126	113	127	144	140	112	102	109	122
大塚西保育園	60	59	62	62	37	36	30	31	25	15	21
三谷西保育園	100	97	96	95	106	95	65	53	51	80	83
形原保育園	110	68	68	66	47	34	68	67	77	85	76
中部保育園	170	126	108	130	133	147	117	135	130	144	140
南部保育園	160	75	69	57	65	56	121	134	143	150	146
形原南保育園	100	81	97	98	105	103	73	77	83	71	61
西浦保育園	120	108	99	83	75	90	86	101	82	93	77
形原北保育園	90	89	80	76	91	102	96	84	83	74	50
塩津北保育園 ※		58	52	41	34	36	52	40	36	10	
鹿島こども園 ※	185	125	127	131	117	118	128	126	128	174	197
みどり保育園 ※	140	102	98	89	96	99	111	139	143	138	136
公立保育園計	1,630	1,494	1,523	1,511	1,428	1,301	1,251	1,225	1,195	1,241	1,232
私立保育園計	325				96	217	239	265	271	312	333
市内保育園合計	1,955	1,494	1,523	1,511	1,524	1,518	1,490	1,490	1,466	1,553	1,565

※ 鹿島こども園は平成22年度、みどり保育園は平成20年度より民営化
 ※ 塩津北保育園は令和3年3月閉園

(各年4月1日時点)

園児数推移



- 大塚保育園、大塚西保育園ともに利用者数が減少している傾向があります。
- 大塚保育園の園児数は、2歳児の受け入れを開始した平成30年(2018年)には一時的に増加しています。

(5) 年齢別園児数 (資料集 p.26)

令和3年4月1日現在

保育園名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	受入可能年齢	延長保育
東部保育園			9	22	13	19	63	2歳児から	○※
北部保育園	3	12	17	21	24	27	104	生後6か月から	○
西部保育園	1	5	12	13	4	12	47	生後6か月から	○
塩津保育園	0	8	6	9	11	21	55	生後6か月から	○
大塚保育園			12	15	14	22	63	2歳児から	○※
府相保育園	4	11	23	21	33	32	124	生後6か月から	○
三谷東保育園	4	14	23	26	32	23	122	生後6か月から	○
大塚西保育園				5	9	7	21	3歳児から	
三谷西保育園	3	10	15	21	15	19	83	生後6か月から	○
形原保育園	6	9	17	12	11	21	76	生後6か月から	○※
中部保育園	2	24	24	34	30	26	140	生後6か月から	○
南部保育園	1	18	24	30	33	40	146	生後6か月から	○
形原南保育園	1	6	12	7	15	20	61	生後6か月から	○
西浦保育園	2	6	10	16	16	27	77	生後6か月から	○※
形原北保育園				16	20	14	50	3歳児から	○※
鹿島こども園	9	22	36	46	31	53	197	生後6か月から	○
みどり保育園	3	20	24	29	30	30	136	生後6か月から	○
公立保育園 合計	27	123	204	268	280	330	1,232		
私立保育園 合計	12	42	60	75	61	83	333		
市内保育園 合計	39	165	264	343	341	413	1,565		

※ 平日夕方の延長保育は、原則午後7時までですが、東部保育園・大塚保育園・形原保育園・西浦保育園・形原北保育園については、午後6時までです。

※ 塩津保育園は今年度より低年齢児(2歳未満児)の受け入れを開始しました。

- 受け入れ可能年齢は大塚保育園2歳児から、大塚西保育園3歳児からと、大塚地区内の保育園では0~1歳の子どもを預けることができない状況です。
- 延長保育についても午後6時まで(大塚保育園)と他地区と比較して短い状況です。
- また、大塚西保育園に通う園児は21名と市内で一番規模の小さな保育園となっています。

(6) 公民館の利用状況 (資料集 p.30)

※上段は R2、下段はコロナ渦前の H30 の数値

【1】 公民館別 貸部屋利用率状況

施設名称	利用者数(人)	貸部屋利用率(%)	貸部屋 一覧
蒲郡公民館	5,008	18.9%	【7部屋】和室(1・2)、研修室、調理室、多目的ホール(1・2・3)、(館外等)
	17,540	36.7%	
小江公民館	3,733	10.4%	【6部屋】ホール、小会議室、講座室、和室、ホール、料理室、(館外等)
	15,079	26.1%	
府相公民館 ※	10,564	19.2%	【8+2部屋】交流プラザ、ホール(1・2)、和室(1・2)、会議室(1・2・3)、調理室(共用)、図工室(共用) 館外・屋外スペース等
	22,885	29.3%	
東部公民館	11,822	6.7%	【6部屋】小会議室、南研修室、和室(A・B)、研修室、大会議室、料理室、(館外等)
	32,561	18.6%	
北部公民館	9,679	5.0%	【5部屋】会議室、ホール、調理室、和室(1・2)、(館外等)
	29,117	17.8%	
西部公民館	2,371	13.8%	【6部屋】研修室(第1・第2)、和室、ホール、図書室、調理室、(館外等)
	10,147	28.8%	
三谷公民館	3,606	4.1%	【9部屋】集会室(第1～第6)、大集会室、和室、調理室、(館外等)
	34,641	21.6%	
塩津公民館	5,457	10.4%	【6部屋】講義室、図書室、調理室、会議室、日本間、交流室、(館外等)
	18,727	17.3%	
大塚公民館	14,136	8.8%	【6部屋】集会室、会議室、小会議室、控室、和室、料理室、(館外等)
	28,257	22.5%	
形原公民館	4,806	12.8%	【7部屋】会議室(1～3)、大ホール、中ホール、和室(東・西)、(館外等)
	26,621	36.1%	
西浦公民館	14,445	4.7%	【9部屋】本館研修室(1・2)、本館講堂、本館会議室(1・2)、調理室、 南館会議室(1階・2階)、南館図書室、(館外等)
	32,770	19.3%	
全館平均	7,784	10.4%	
	24,377	24.9%	

【2】 大塚公民館 部屋別 利用率状況

施設名称	利用者数(人)	貸部屋別利用率(%)	時間区別				利用回数
			午前	午後	夜間	計	
集会室	2,156	28.7%	50	51	83	184	
	7,062	70.7%	174	260	198	632	
会議室	669	10.9%	23	18	29	70	
	1,917	17.6%	41	32	84	157	
小会議室	195	5.8%	19	18	0	37	
	546	11.4%	19	77	6	102	
控室	0	0.0%	0	0	0	0	
	234	6.4%	8	47	2	57	
和室	273	7.3%	29	7	11	47	
	1,840	27.4%	39	142	64	245	
料理室	0	0.0%	0	0	0	0	
	107	1.5%	10	3	0	13	
その他	10,843						
【全館・館外等】※	16,551						
合計	14,136	8.8%	121	94	123	338	
	28,257	22.5%	252	419	290	1,206	

【3】 大塚公民館 世代別 利用状況

※延利用者数のうち()内は館外(スポーツ施設など)の利用者

	クラブ数	延利用者数	世代占有率(利用者)	実施回数	世代占有率(回数)
定期クラブ活動(大人対象+子ども対象)	34種類	12,007(9,747)	100.0%	878	100.0%
	38種類	21,647(13,425)	100.0%	1,797	100.0%
大人対象のクラブ活動	27種類	9,509(8,460)	79.2%	697	79.4%
	30種類	15,047(10,711)	69.5%	1,384	77.0%
子ども対象のクラブ活動	7種類	2,498(1,287)	20.8%	181	20.6%
	8種類	6,600(2,714)	30.5%	413	23.0%
その他一般活動		2,129(0)		72	
		6,610(1,005)		228	
合計		14,136(9,747)		950	
		28,257(14,430)		2,025	

※定期教室・クラブ … 子ども習字、子どもバレー、大塚EC卓球、チアダンス、格技会空手、子どもフラダンス、詩吟クラブ、絵画クラブ、大塚家の健康ダンス、書道クラブ、太極拳クラブ、俳句クラブ、ファイトレッスン、三河竹友会、グランドゴルフクラブ、ゲートボールクラブ、ラジオ体操クラブ、カラオケ、リズム体操、三味線魚の会、あやめ会、エアロビクスの会、3B体操、生け花クラブ、ママさんバレー等
※一般利用 … 文化祭、各種会議、敬老会、子ども会など

- 大塚公民館の利用率は全館平均とほぼ同程度であることが分かります。
- 部屋別利用状況についてみると、小会議室・控室・料理室の利用率は平成30年度においても1割程度とあまり利用されていないことが分かります。
- 公民館等を定期利用しているクラブの一覧を見ると習字やフラダンスなど、多くの子ども向けクラブが活動していることが分かります。

(7) おおつか児童館の利用状況（資料集 p.28）

令和2年度年間利用者数

(人)

	開館 日数	乳 幼 児		小 学 生		中 高 生		そ の 他		小 計		団 体 利 用 者 利 用 数	児 童 ク ラ ブ 利 用 数	合 計	
		利 用 数	1 日 均	利 用 数	1 日 均	利 用 数	1 日 均	利 用 数	1 日 均	利 用 数	1 日 均			利 用 数	1 日 均
がまごおり児童館	246	3,996	16.2	380	1.5	12	0.0	3,472	14.1	7,860	32.0	104	6,544	14,508	59.0
(参考)H30	294	9,782	33.3	2,871	9.8	435	1.5	8,004	27.2	21,092	71.7	239	8,141	29,472	100.2
かたはら児童館	254	3,058	12.0	637	2.5	95	0.4	2,857	11.2	6,647	26.2	0	6,647	26.2	26.2
(参考)H30	293	7,028	24.0	2,366	8.1	106	0.4	6,347	21.7	15,847	54.1	129	4,537	20,513	70.0
みや児童館	255	3,285	12.9	221	0.9	20	0.1	2,809	11.0	6,335	24.8	0	4,118	10,453	41.0
(参考)H30	292	8,041	27.5	4,135	14.2	396	1.4	6,244	21.4	18,816	64.4	18	3,462	22,296	76.4
おおつか児童館	254	2,688	10.6	424	1.7	22	0.1	2,164	8.5	5,298	20.9	80	4,748	10,126	39.9
(参考)H30	293	4,028	13.7	2,118	7.2	115	0.4	3,330	11.4	9,591	32.7	437	7,057	17,085	58.3
にしうら児童館	257	2,174	8.5	565	2.2	57	0.2	1,746	6.8	4,542	17.7	0	3,666	8,208	31.9
(参考)H30	292	6,630	22.7	5,015	17.2	176	0.6	5,229	17.9	17,050	58.4	95	4,649	21,794	74.6
しおつ児童館	239	3,757	15.7	533	2.2	213	0.9	3,458	14.5	7,961	33.3	10	4,693	12,664	53.0
(参考)H30	293	7,883	26.2	3,578	12.2	891	3.0	6,054	20.7	18,206	62.1	405	6,919	25,530	87.1
ちゆうぶ児童館	247	3,398	13.8	478	1.9	89	0.4	3,252	13.2	7,217	29.2	99	3,030	10,346	41.9
(参考)H30	292	9,534	32.7	5,598	19.2	825	2.8	8,208	28.1	24,165	82.8	72	3,040	27,277	93.4
全館合計	250	22,356	89.3	3,238	12.9	508	2.0	19,758	78.9	39,924	159.5	293	26,799	72,952	291.5
(参考)H30	293	52,726	180.1	25,681	87.7	2,944	10.1	43,416	148.3	124,767	426.2	1,395	37,805	163,967	560.2

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、警戒レベルに応じて開館時間の短縮や入場者数の制限、臨時休館などを実施しています。

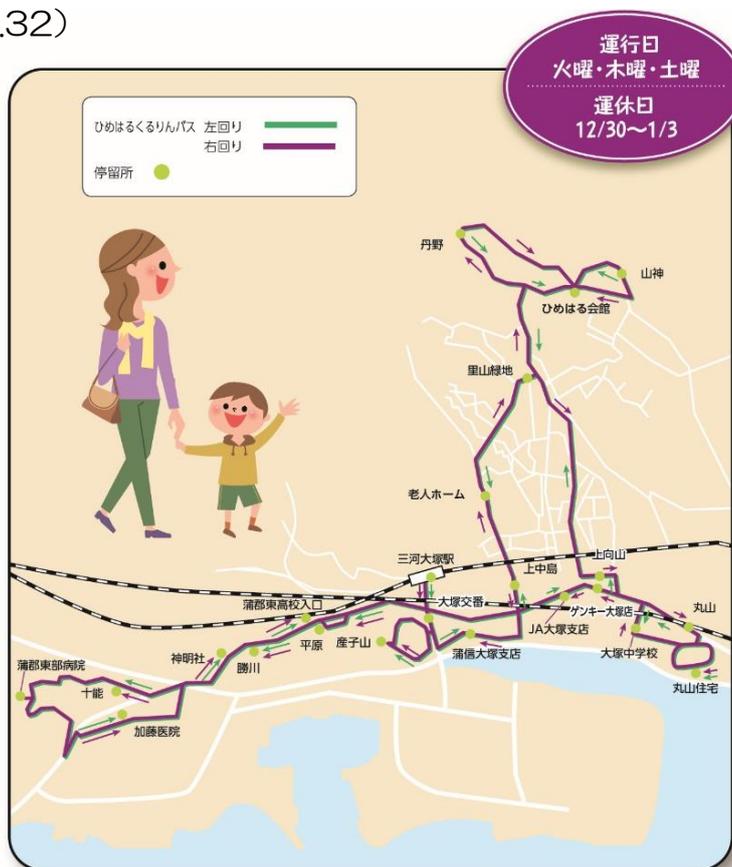
※ かたはら児童館内で実施していた児童クラブは、令和元年度より形原北小学校内に移転しました。

- ・コロナ禍前の平成30年度のおおつか児童館の利用者数をみると、他児童館と比較して利用者数が少ないことがわかります。

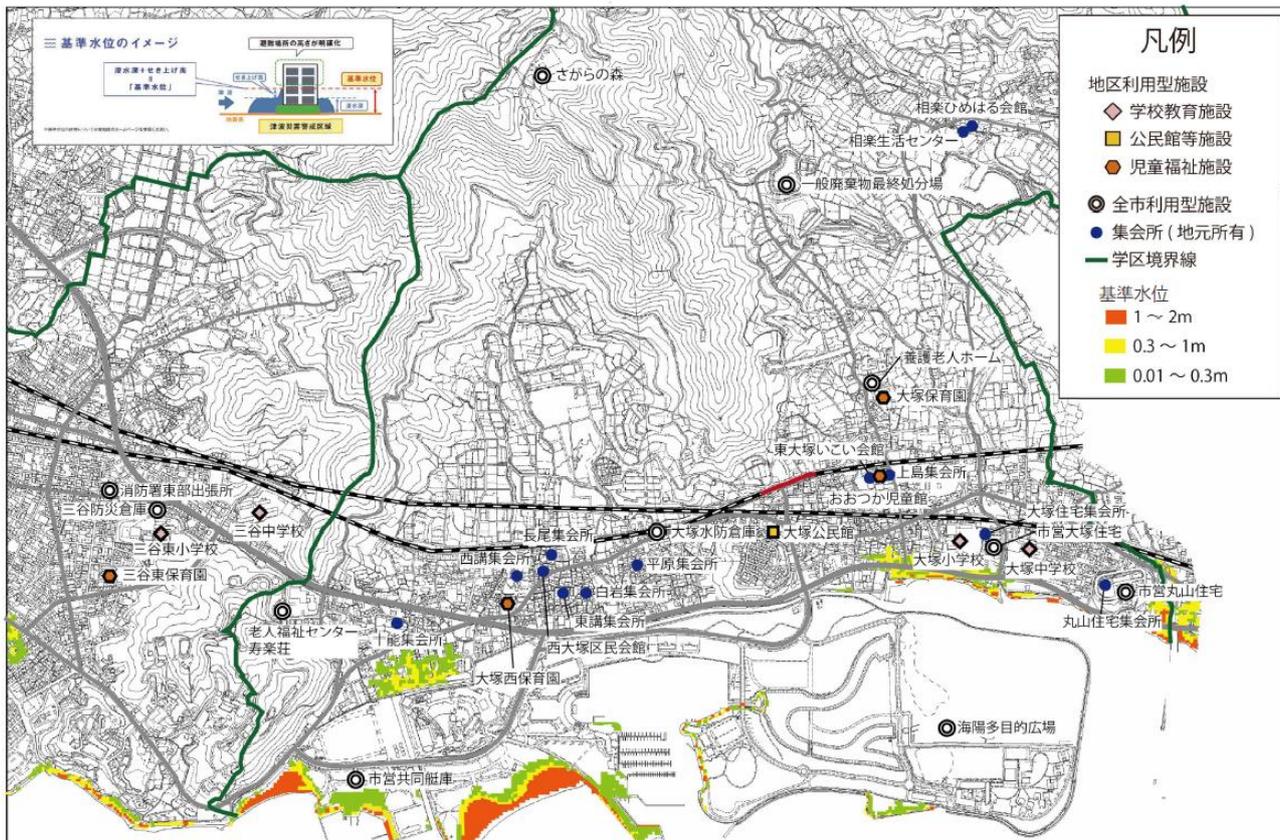
(8) ひめはるくるりんバス（資料集 p.32）

令和3年3月より大塚地区内をひめはるくるりんバスが運行しています。

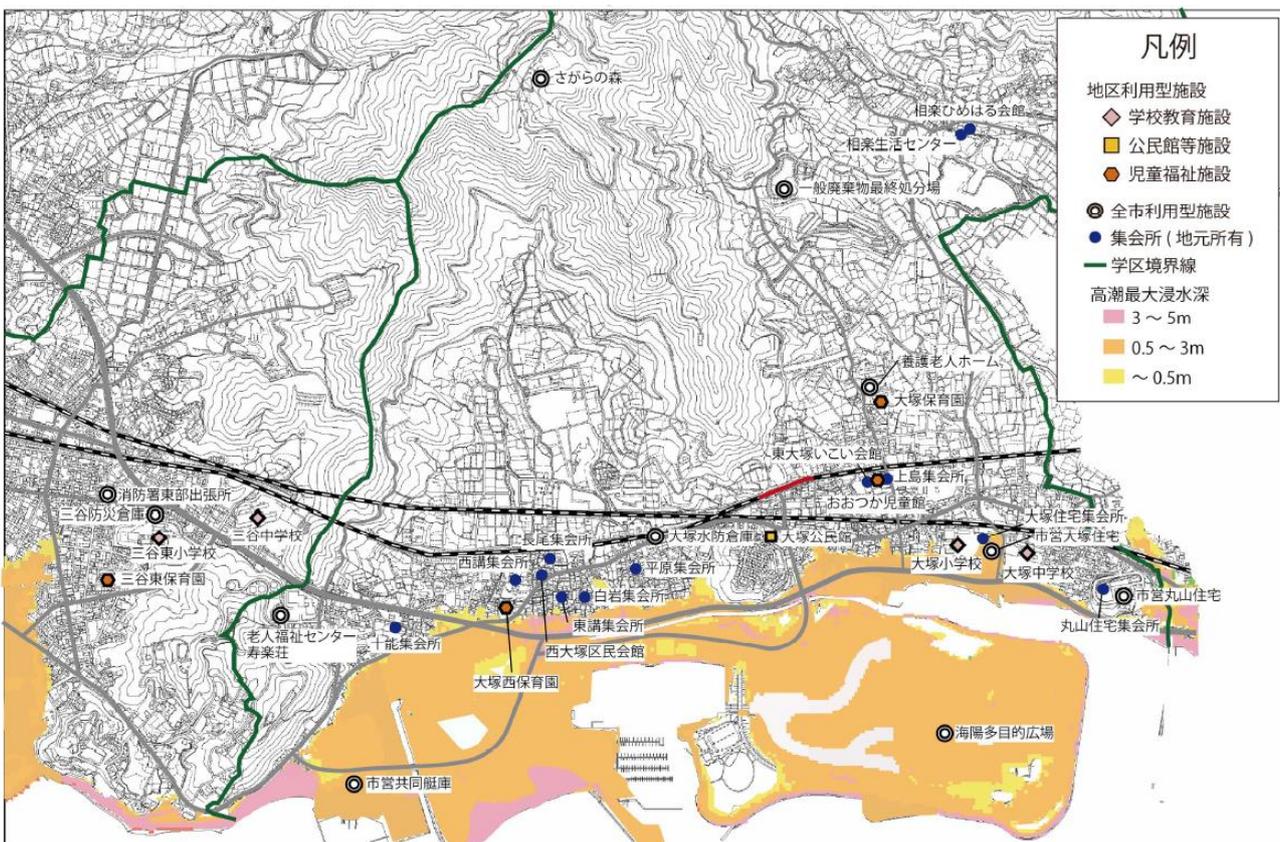
コミュニティバスの運行開始時には、地域の協議組織である「地区公共交通協議会」を立ち上げ、地区の皆さまと運行計画案を検討しています。運行開始後も皆様に便利に利用していただくため、地区の状況に合わせてバス停設置場所や運行ルートの見直しを行っています。



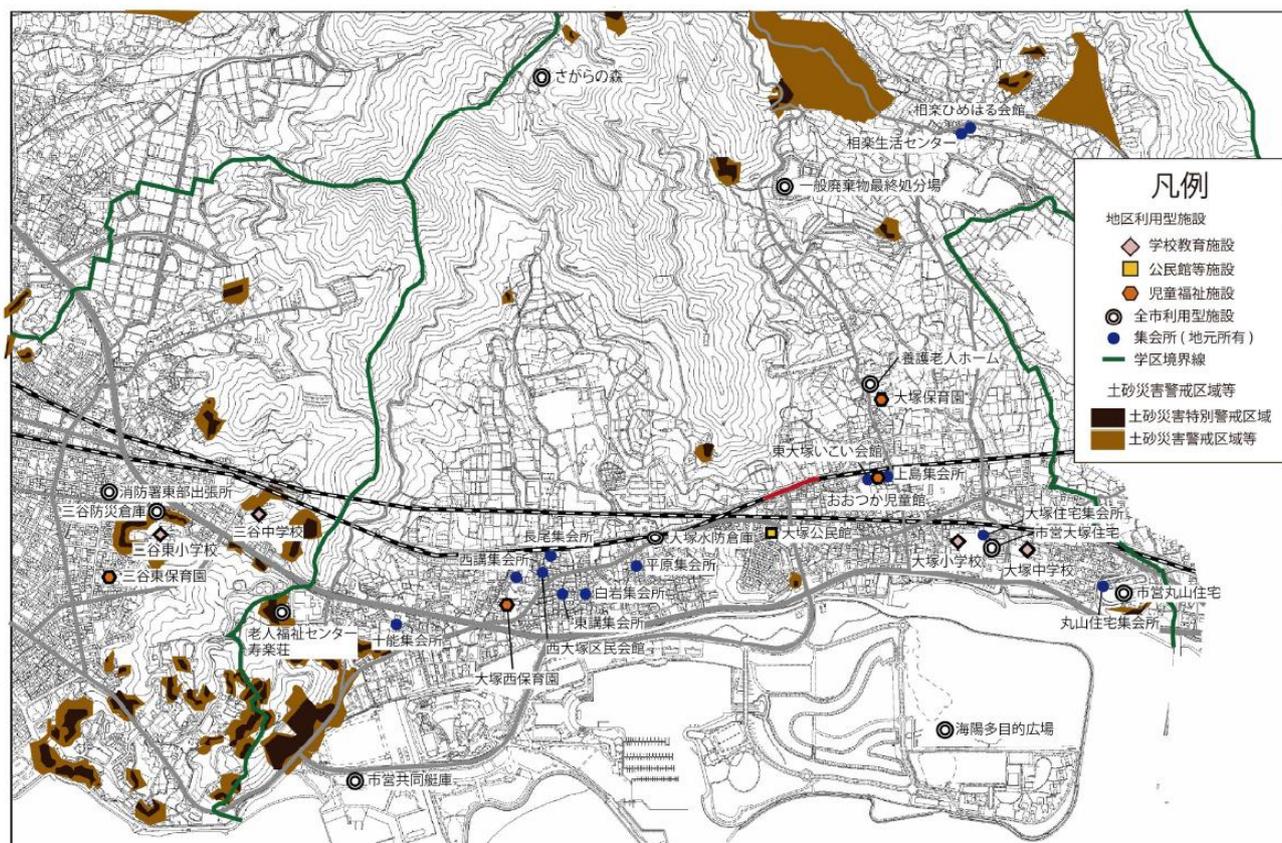
(9) 津波浸水警戒区域 (資料集 p.2)



(10) 高潮浸水想定区域 (資料集 p.3)



(11) 土砂災害警戒区域 (資料集 p.4)



- 埋立地である海陽町周辺では津波や高潮が想定されていますが、避難所・避難場所となる学校、保育園、公民館については警戒区域等に指定されていません。
- なお、大塚小学校敷地については海拔 8.5~9.1m、大塚中学校については海拔 7.2~8.7m、両校の南側道路については海拔 3.0~3.6m と周辺の土地よりも一段高い場所に施設が立地しています。(国土地理院地図データより)

課題解決に向けた視点の整理

- 第1回ワークショップでいただいたご意見が、どのような視点で発言いただいているのか、事務局で整理しました。
- 皆さまからは、いつまでも住み続けたい地区、住み続けられる地区でありたいという趣旨のご意見を多くいただきました。こうしたご意見は、以下の7つの視点に分類することができます。

視 点	ご意見要約
① 多様な人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設が集合することで、多世代交流ができるとよい ● 異年齢の交流は子ども達にとってよい効果がある ● 子ども達に対し農家や地域の魅力を発信し、地元への愛着を育むことで、将来も留まってくれるとよい ● 外国人が多い地区なので「共生」を考える必要がある
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 低年齢児保育や延長保育ができる保育園にしてほしい ● 児童クラブは1カ所にまとまると便利だ ● 保育園と小学校が一体化するとお迎えも安心で楽だ
③ 子ども達の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後や長期休暇中の子ども達の居場所が欲しい ● 地域の様々な人材が子ども達の活動に力を添えられるとよい
④ 生涯現役でいられる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業の高齢化が深刻だが、高齢者も現役で活躍している ● 高齢者のことを考えるとくるりんバスがもっと便利になるとよい ● 高齢者にとっては公民館が地域の繋がりを生む拠点だ
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時を考慮した施設配置が必要だ ● 交通事故や防犯の面で通学路の安全性が心配だ ● 施設が老朽化している
⑥ 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の再編を考えるうえで駐車場は重要だ ● 買い物、交通が不便である ● 施設が東端によっており、配置のバランスが悪い
⑦ 効率的な施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の複合化によって効率化したほうがよい ● 子ども数が減っており、問題がないのであれば小中一貫にしたり、保育園を統合してもよい
⑧ . . .	● . . .

※皆様のご意見をどのように本資料に整理したかについてはp.39~42「第1回ワークショップでいただいたご意見の整理」をご覧ください。

第1回ワークショップでいただいたご意見の整理

- 第1回ワークショップでは、様々な観点からワークショップの進め方や大塚地区の課題等についてご意見をいただきました。
- いただいたご意見がどのような視点に基づいているのかを事務局において整理し、下表のとおり分類しました。
- 「回答を用意しています」としている項目については、p.19～26の「ご質問等への回答」で、事実関係や市の考えなどの回答を用意しています。
- 「進め方についてのご意見」「現状認識」「施設配置に関する提案」としている項目は、今後のワークショップ運営や検討にあたり考慮すべき事項として整理します。
- まちづくりや公共施設に関するご意見については、次の①～⑦に分類し、この分類に基づき、p.38「課題解決に向けた視点の整理」を作成しました。

【第1回ワークショップでのご意見の分類】

- ①多様な人々との交流 ②子育てしやすい環境づくり ③子ども達の居場所づくり ④生涯現役でいられる地域づくり
⑤安全・安心 ⑥利便性の向上 ⑦効率的な施設配置

(1) 進め方、公共施設マネジメントの取組みについてのご意見

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
公共施設マネジメントの考え方	公共施設の再編の方針のように、施設の複合化によって効率化したほうがよい。	⑦効率的な施設配置
	小学校に多様な機能を持たせるといふ話は、コストを考えるとよいのかもしれないが、複合化することにより各施設の良さがなくなるのは寂しい。元の施設の利点が失われないように配慮してほしい。	進め方に関するご意見
	大塚金野線の整備や一般廃棄物最終処分場の返還など、今後大塚地区に影響のあることがいくつかある。跡地利用など公共施設マネジメントと合わせて考えてもよいのではないか。	進め方に関するご意見 回答を用意しています
ワークショップの進め方	今後整備する施設を主に使うこととなる若い世代の意見を尊重したい。	進め方に関するご意見
	色々な分野の方が参加しており様々な意見が聞けることが楽しみだ。今回のグループにはいない他地区の方の意見も聞いて検討を行いたい。	進め方に関するご意見
	全ての回に参加できず、残念だ。また、議論の進捗についていけるか不安だ。	進め方に関するご意見
	かわら版は、ひめはる会館やゲンキーなど誰もが目に留まる場所に掲示してあるとよい。かわら版やオープンハウス以外にもSNSでの情報発信があるとよい。	進め方に関するご意見 回答を用意しています

(2) 大塚地区の公共施設に関するご意見

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
地区のまちづくり	地区に若い人が少なく、人口も減っているため不安だ。若い世代が移り住んでくれるような地域を作りたい。	現状認識
	若い世代が大人になると他の地区へ出ていってしまう。働く場所がないことや買い物・交通等の不便さが原因ではないか。	⑥利便性の向上
	小学校のクラス数が減っている一方で、身近には3人の子どもがいる家庭もある。今後、子どもの数はどうなっていくのかと心配だ。	現状認識
	みかん農家の後継者がおらず、農家が減っている。蒲郡の重要な産業として残していきたい。	現状認識
	相楽町はみかん農家が多く元気な高齢者が多かったが、農業や生活スタイルも変わってきているため、昔と事情は変わってきていると思う。	④生涯現役でいられる地域づくり 現状認識
	地域振興が遅れているという不満はない。人がよく良い地域だと思う。	現状認識
	海と山が近く自然が多いのが魅力だ。公共施設も自然のよさを活かせれば魅力につながるのではないだろうか。	現状認識
	若い世代には不便があるかもしれないが、高齢者には住みやすい地区だと思う。	現状認識
高齢者のことを考えると、くるりんバスの本数や路線を増やすのはどうか。みんなが使いやすいバスになると車がなくても便利に暮らせるようになる。	④生涯現役でいられる地域づくり ⑥利便性の向上	

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
地区のまちづくり	市内でも外国人が多い地区ではないだろうか。外国人との共生も考える必要があるだろう。	①多様な人々との交流
	施設の統合により避難所が減ってしまうと災害時に機能するのか疑問だ。避難所は複数あったほうが、多くの人々が避難しやすいだろう。避難所の数と避難所までの距離は公共施設の配置を考える視点として必要だ。	⑤安全・安心
	資料を見ると大塚小の周辺まで災害の危険区域になっているようだ。想定外といわれることが増えているので、子ども達の安全確保や市民の避難所としての観点から学校の立地に不安がある。高台などの安全な場所に公共施設を建ててほしい。	⑤安全・安心
	小学校には防災の備蓄品が準備してある。台風などの一時的な避難所としては小学校で問題ない。	⑤安全・安心
	大塚地区は狭隘道路が多く防災の観点からも不安がある。旧道は道が狭く歩道も整備されていない部分があるが、交通量が多く危険だ。新しい公共施設には安全に通える道路を整備してほしい。	⑤安全・安心 現状認識
公共施設の現状や今後について気になること (公共施設全般)	公共施設が複合化することで、多世代交流ができるとよい。高齢者と孫が遊べたり、若者が発表をしたり、日々の生活の中で交流が生まれる施設となるとよいが、その場合、遠方の方への配慮が必要だろう。	①多様な方々との交流 ⑥利便性の向上
	1つの場所で保育園から中学生まで世代間交流ができる施設になるとよい。施設を利用する子ども達が農家や地域の魅力を経験することで、地元への愛着が湧き、将来的に地域にとどまってくれるかもしれない。	①多様な方々との交流
	保育園から小学校、中学校へと環境が変わる良さもある。子どもにとってはお兄ちゃんお姉ちゃんになるという気持ちが芽生える。	②子育てしやすい環境づくり
	保育園と小学校が一体化するとお迎えも安心で楽だ。先生と話をする場もでき、メリットが多そう。	②子育てしやすい環境づくり
	地理的に他の地区と離れているので、地区内で公共施設を複合化する方向になると思う。	現状認識
	豊橋や新城では学校と公民館が併設されており、夜は体育館を地域の人々が使うなど上手に使っていると聞くので、大塚でも見習うとよい。	⑦効率的な施設配置
	子どもが遊ぶ場所がないため、日陰の空間や室内の遊び場など子ども達の居場所があるとよい。また、今後部活動がなくなるのであれば、外部のサークルや指導員、公民館、児童館などを活用し、自宅以外に過ごすことのできる場所が欲しい。	③子ども達の居場所づくり
	施設の再編を考えるうえで、駐車場は重要だ。	⑥利便性の向上
公共施設の現状や今後について気になること (小中学校)	保育園と公民館の一体化ならば駐車場が十分確保できるのではないだろうか。	⑥利便性の向上
	子どもの数が減っており、1学年1クラスという状況なので小中学校は一緒にするとよい。小学校から中学校へと同じメンバーで進学するので一貫校にしてもよいだろう。	①多様な方々との交流 ⑦効率的な施設配置
	人数が少ないためか、子ども同士の仲が良い。特に問題がないのであれば、小中一貫校にしてもいいと思う。	①多様な方々との交流 ⑦効率的な施設配置
	地区の真ん中にある蒲郡東高校付近の基盤整備された場所に小中一貫校を整備してはどうか。	⑥利便性の向上 施設配置に関する提案
	大塚は分村合併をしたため小中学校が地区の東端に立地しており、配置のバランスが悪い。西大塚や相楽の子ども達は通うのが大変だろう。体力が付きよい面もあるが、冬場や雨の日は家族が送迎することもあるようだ。	⑤安全・安心 ⑥利便性の向上 現状認識
	小学校は通学路の安全性が心配だ。道が狭かったり、危険な場所もある。交通安全だけではなく、冬は道が暗くなるので防犯の面でも心配だ。	⑤安全・安心
	年上の子が下の子の面倒をみながら通学しているのを見るとかっこいいなと思う。異年齢の子ども達の交流は新しい刺激があり、良い効果があるのではないか。	①多様な方々との交流
	現在学校に通う子どもに建物について聞いたが、特に不満はなく楽しく勉強しているようだ。	現状認識
	入学する児童の数が減っている。かつては各学年2クラスあったが、今年の1年生は1クラスだ。既存の規模や教室数が必要なのだろうか。教室を大きくとることも考えられるだろう。	⑦効率的な施設配置
部活動が少なく、小学校の文化部は吹奏楽しかない等入りたいと思う部活がなさそうだ。多様な楽しみが地域にあると放課後の過ごし方が充実するのではないか。	③子ども達の居場所づくり	

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
公共施設の現状や今後について気になること (小中学校)	学生時代の部活動のメンバーとは今でも交流があり、強いきずながある。今は同級生同士や先輩後輩の繋がりが希薄化しているように感じるので、地域の様々な人材が地区の子どもの繋がりの機会に力を添えられるとよい。	①多様な方々との交流 ③子ども達の居場所づくり
	校庭の遊具が減っている。ゲームなどで外で遊ぶ機会が減っており、ますます日にあたるのが減るのではないか。	③子ども達の居場所づくり 現状認識
公共施設の現状や今後について気になること (保育園)	0~1歳の低年齢児保育がないことは、子育て世代が移り住まない決定的な要因となるだろう。今後も共働き世帯は増えるので低年齢児保育もできる保育園にしてほしい。	②子育てしやすい環境づくり
	低年齢児や延長保育、一時預かり、病児保育など保育サービスが充実していない。サービスが充実したら、思うように働けるのと思う親は多いのではないか。	②子育てしやすい環境づくり ⑥利便性の向上
	大塚西保育園の園児数が減少しているため、大塚保育園と合併してもいいのではないか。2園を集合することで、低年齢児や保育時間などのサービスを向上するとよい。	②子育てしやすい環境づくり ⑥利便性の向上 ⑦効率的な施設配置
	保育園は、子ども達や親の交流を増やすために合併してもよい。	①多様な方々との交流
	保育園が老朽化しており、地震などを考えると不安だ。塩津地区のように施設の集合をすることで大塚も1つにして新しくなるとよい。	⑤安全・安心
	施設を一体化することで、渋滞や駐車場不足、マナー違反による周囲への迷惑などお迎えのことが心配である。	⑥利便性の向上 進め方に関するご意見
	西大塚からみると東に施設が集中しており、子どもの送り迎えが基本的に車となる。電車通勤をしているため、一度家に車を取りに行くことになる。どこの立地でも難しいと感じている。	②子育てしやすい環境づくり ⑥利便性の向上
あさひこ幼稚園の園児が毎月さがらの森に来る。大塚でも自然に触れ合う環境での教育があるとよい。新しく保育園を整備するのなら、蒲郡東高校の前など海や山の自然を感じる場所が良いが、災害を考えると適地は難しい。	②子育てしやすい環境づくり ⑤安全・安心 施設配置に関する提案	
公共施設の現状や今後について気になること (公民館)	公民館で活動している子ども向け教室が一つの子どもの居場所となっている。高齢者向けの教室もあり、ぜひ活用してほしい。	③子ども達の居場所づくり ④生涯現役でいられる地域づくり
	公民館は料理教室やカラオケなどが開かれており、情報発信の場や様々な行事の会場として利用されている。高齢者にとっては地域の繋がりを生む拠点として機能している。	④生涯現役でいられる地域づくり
	公民館でラジオ体操を行っているが、他の活動をあまり見ない。ほかにもどのように利用されているのだろうか。	回答を用意しています
	中学生までは本を借りるために公民館内の図書館分室を利用していたが、若者が公民館を利用する機会はない。	現状認識
	東大塚いこい会館では日本語教室や多文化交流が行われているが、公民館も地域の外国人が利用し交流が増えるとよいと思う。	①多様な方々との交流 回答を用意しています
	昔は小中学校と同じように地区の東寄りに立地していたが、現在は地区の中央にあるので場所的には良いと思う。3階建てでエレベーターもあり充実している。	⑥利便性の向上 現状認識
公民館の建物の耐久性や設備の老朽化が気になるが、普段利用している人はどう思っているのだろうか。	⑤安全・安心	
公共施設の現状や今後について気になること (児童館)	既に児童館は東大塚いこい会館（集会所）と複合施設になっている。高齢者のいきいきサロンを集会所で行っており、児童館の親子と一緒に体操したり、複合施設を上手に使っている。他地区には広まらなかったが、複合施設はよいと思う。	①多様な方々との交流 ④生涯現役でいられる施設づくり
	児童館は町民以外にも御津町からの利用者がある。施設内から電車が見えることが人気の理由のようだ。	②子育てしやすい環境づくり 現状認識
	共働き・シングル家庭の増加に伴い児童館の利用者が多くなっている。長期休暇中は特に多いが、地区内に1つしかなく、規模や運営が心配だ。混雑しているために家で遊ぶしかないという状況がある。	②子育てしやすい環境づくり ③子ども達の居場所づくり ⑤安全・安心

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
公共施設の現状や今後について気になること (児童クラブ)	働く母親が多いので、児童クラブの利用者も増えている。おおつか児童館内の児童クラブは部屋が狭く、全員が入れないため、併設する集会所のスペースを借りている状況である。	②子育てしやすい環境づくり 現状認識
	児童クラブは高学年が小学校、低学年が児童館で実施されているが、兄弟で利用している家庭は大変ではないだろうか。1か所にまとまると便利になる。	②子育てしやすい環境づくり ⑤利便性の向上
	児童館と小学校の児童クラブをなるべく同じ状況にしてほしい。児童館の方がおもちゃが充実しているなどの違いがある。	②子育てしやすい環境づくり

本日の検討内容

- ① 第1回ワークショップで出された意見を反映し、皆様が大切だと思っている7つの視点をまとめました。皆様のご意見は反映されていますか。追加すべき視点はありますか。

(WSを通じて得られた課題の視点)

- ①多様な人々との交流
- ②子育てしやすい環境づくり
- ③子ども達の居場所づくり
- ④生涯現役でいられる地域づくり
- ⑤安全・安心
- ⑥利便性の向上
- ⑦効率的な施設配置

- ② 各々の視点について、課題を解決するためにどのようなことに具体的に取り組んでいくとよいでしょうか。

次回ワークショップのご案内

「第3回大塚地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

令和3年11月28日（日）

午後1時30分～午後4時30分

（受付開始時刻＊オンライン：午後1時 会場：午後1時15分）

2 お願い

- ご欠席の場合は、11月19日（金）までに事務局へご連絡ください。
- 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので、届きましたら資料に不足がないかご確認ください。参加の際に使用するZoomのID・パスコードも同封させていただきます。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・尾寄・星野

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp